

1 はじめに

潤番田遺跡は主に弥生時代と室町時代から江戸時代を中心とした遺跡です。調査前は水田でしたが、表土を剥ぐと 30 cm という非常に浅い場所から、人々の生活の痕跡が姿を現しました。保存状態の良い遺物も多いことから、当時の暮らしぶりがよく分かる遺跡となっています。なお、第 1 次調査は県道拡幅に伴い 2009 年に発掘調査が実施され、本調査は病院建設に伴う調査で、第 2 次調査にあたります。

2 潤番田遺跡の地理・歴史的環境

潤地区は、糸島平野の中央部に位置しています。現在の潤番田遺跡周辺は宅地や水田として利用されていますが、弥生時代は起伏にとんだ地形であったことが過去の調査などで判明しています。周囲には弥生時代の玉作り工房跡が発見された潤地頭給遺跡、室町時代の屋敷を巡る濠が検出された潤古屋敷遺跡や、室町時代の道路跡が確認された潤丸田遺跡などがあり、まさに文化財の宝庫と言えます。

3 潤番田遺跡第 2 次調査の概要

調査期間：平成 30（2018）年 11 月～平成 31（2019）年 3 月末

調査面積：1000 m²

時代：弥生時代、室町時代、江戸時代

主な遺構：掘立柱建物、井戸、土坑、溝、大溝

主な遺物：弥生土器、土師器、陶磁器、石器（石斧、石臼など）、木器（下駄、独楽、柱、結桶など）、鉄器（鉋、包丁など）

4 主な成果

遺跡の調査では主に 3 つの成果を得ることができました。

- ①南北方向に延びる幅 60 cm、深さ 120～150 cm の弥生時代前期（約 2400 年前）の溝が検出されています。溝の底には砂が堆積しており、水が流れていたと考えられます。また、幅約 200 cm、深さ 120～150 cm の東西に延びる弥生時代中期（約 2100 年前）の大溝を確認しました。潤地頭給遺跡においても、同時期の集落を区画する東西方向の溝が検出されていることから、同じような性格を持つ可能性があります。
- ②室町時代と江戸時代の区画溝が確認され、屋敷地などの地割の存在が想定されます。
- ③室町時代～江戸時代の井戸が確認され、室町時代の 1 号井戸には桶を使った井戸枠が残っていました。他に、井戸からは墨書のある板や独楽、キセルなど様々な遺物が出土しています。

5 おわりに

今回の調査では、これまで潤地区において不明だった弥生時代前期と江戸時代の集落の様子を示す遺構や遺物が出土しています。周辺の調査では弥生時代と室町時代の集落跡が中心であるため、弥生時代の集落の変遷ほか、室町～江戸時代にかけての集落の移り変わりなどを文献史料と照らし合わせ、検討していく必要があります。

平成 30 年度

うるう ぼんでん

潤番田遺跡第 2 次調査現地説明会資料



潤番田遺跡上空から潤地頭給遺跡（東風小学校）・志登支石墓群方面を望む

日時 平成 31 年 3 月 16 日（土）10：00～11：30

場所 糸島市潤三丁目 456 番地、458 番地、459-1 番地

糸島市教育委員会

**潤番田遺跡第2次
調査で発見された
遺構や遺物だよ！**



屋敷の区画溝（江戸時代）

江戸時代の溝で、作られた当初は方形の区画溝だったと考えられます。上は削られているため深さは非常に浅く、5 cm前後しか残っていません。陶磁器などが出土しています。



大溝（弥生時代中期）

東西に延びる直線状の大溝で、逆台形状の断面をしています。上層部から多くの弥生土器が出土しています。



1号井戸（江戸時代）

直径約2m、深さ約2mの素掘りの井戸です。保存状態の良いキセルや独楽こまなどの当時の木製品が出土しています。キセルは科学分析により真鍮製と判明しんちゅうせいしました。下の写真は出土した包丁とキセルをX線撮影した写真です。

包丁の刃と柄の装着の様子がよく分かります。キセルは「火皿」という火をつける部分と胴を「蠟付け」と呼ばれる現在のはんだ付けのような方法で接着していることが分かりました。



3号井戸（室町時代）

15～16世紀の井戸で、東側には石を階段状に2段積み上げていました。井戸枠は結桶むすぶくが使用され、現状で3段に重ねて用いられたことが判明しています。結桶は幅約9cmの長方形の板を組み合わせ、竹で縛って制作されています。



溝（弥生時代前期）

断面がY字形をしている溝で、底に砂が堆積していたことから、当時は水が流れていたことが分かります。



屋敷の区画溝（室町～江戸）

16世紀～江戸時代にかけての溝で、逆台形状の断面をしています。作られた当初は方形の区画溝だったと考えられます。

